

# 1 三重県の概要

## 1 地形

三重県は南北に約 170km、東西に約 80km と細長く、面積は 5,777km<sup>2</sup>あります。県の北部は養老山地が岐阜県との境を、また北から南に鈴鹿山脈が走り、河川は員弁川、朝明川、三滝川、鈴鹿川等が伊勢平野を東流し伊勢湾に注いでいます。

県中央部は、西部に布引山地が南北に走り、西方の奈良県笠置山地との間に伊賀盆地を形成しています。河川は伊賀盆地を源とする木津川が西流し大阪湾に注ぎ、布引山地の東側では、雲出川、櫛田川、宮川等が東流し伊勢湾に注いでいます。

県南部は紀伊山地が半島の背骨となり、急峻な山岳地を形成しており、丘陵地が海に接し平野部をなすところは少なく、海岸部はリアス式海岸線をなしています。

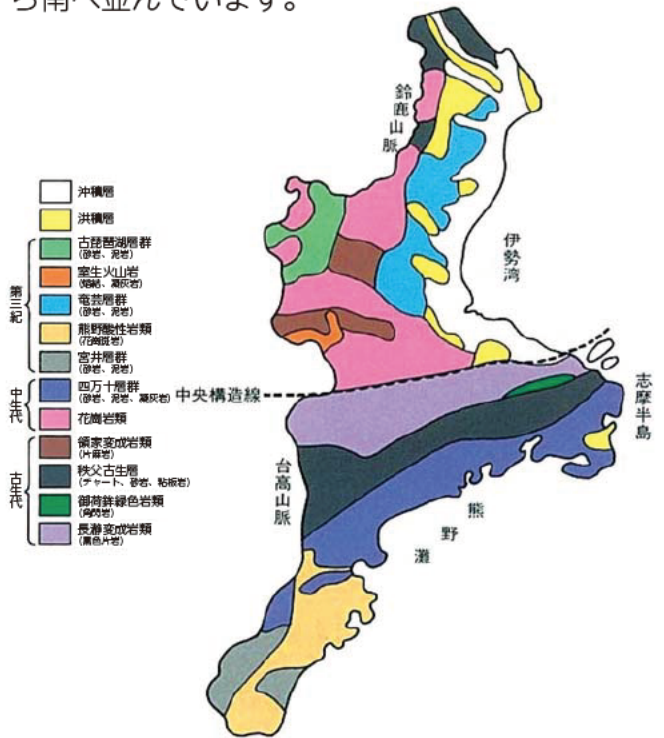


## 2 地質

三重県の地質は、県中央部を流れる櫛田川に並行した中央構造線によって県北部と県南部に二分されています。

県北部には、古生層のなかに中生代末期の花崗岩類が貫入し、新第三紀・中新世の奄芸層群が堆積しています。

県南部には、中央構造線に並行して変成岩類、秩父古生層の古生層、中生層、第三紀層が北から南へ並んでいます。



位置図

